

山本詩桜さん、英会話「コンテスト全道」



2014 HEC実行委員会(札幌スコット・コムンキユウイツツ実行委員長)が主催した「北海道英語チャレンジ・英語スピーキングコンテスト」で、東川中学校2年の山本詩桜(しお)さん(13)がこのほど、中学生部門のチャンピオンになりました。

今年3月、東川中学校の生徒3人が応募し、ステーション・フジカワさん(27)と1対1で英会話審査を受けた(7月まで町のALTⅡ外国語指導助手、カナダに帰国)。

全道各地の応募者の中から、詩桜さんは中学生36人、高校生20人の成績上位者として選ばれ、5日間のHECキャンプに参加(7月下旬、砂川市北海道子どもの国で実施)。室内ゲーム、森の探検、ハイキング、いろいろな国の料理を味わうなど、楽しい英語漬け

キャンプでコミュニケーション力を磨き、参加者の中で最も優秀と認められたのです。5歳の時から、当時民間英会話教室の先生だったイギリス人ベン・コーベットさん(35)と長崎在住の先生に、週1回英語レッスンを受け、英語で日常会話をこなせるレベル。コーベットさんとは今もインターネットのカイブ通信を利用してレッスンを続けているそうです。

「会話は感覚的に話せるけれど、英語のテストは苦手」という詩桜さん、学校の英語教科にはちよっぴり苦戦しているようです。

出来秋のつちのくらし楽し〜クハイス

9月6、7の両日、キトウシ森林公園で第57回くらし楽しくフェスティバルが開かれました。



新米の「雫のゆめ」セット限定販売に長蛇の列が出来ました

秋はトウモロコシ、じゃが芋、カボチャ、農家直売の米「おぼろづき」「ゆめぴりか」などおいしい農産物がどっさり。新米キャンペーンとして、収穫したばかりの「雫のゆめ」新米セットが1日250セット限定で初登場。「ゆめぴりか」の新米おにぎり試食フレンチと相まって長蛇の列が出来ました。

2日目の会場では、よさこいソーラン踊り上川中央支部から「大雪風神会」「破天荒」「SIN」の3グループ約50人が演舞を披露。50円詰め放題など衣類リサイクル市を中心に、掘り出し物を探す家族連れでにぎわいをみせました。

畑は大豊作〜うれしいじゃが芋収穫

9月9日、幼児センターに隣接の畑で、幼児たちが育てたじゃが芋の収穫を行いました。大豊作で、大きな芋が「ごろんごろん」。予想以上にたくさん芋に「いっぱい穫れたよ」と大喜び。

今年の栽培テーマは、「みんなで作った作物でカレーライスを食べよう」。

約100坪(約330平方尺)の畑に、トウモロコシ、カボチャ、ナガネギ、ニンジン、ヒマワリ、じゃが芋を植え、この日は今年最後の収穫日。5歳児約60人の子どもたちが土の中からたくさん育った芋を掘り出しました。



お昼の給食にカレーライスをいっぱい作って収穫祭を開き「おいしかったよ!」。

新東小玄関に「帰門」のモニュメント

9月10日、新校舎の落成間近の東川小学校正面玄関のアップローチ中央に、美唄出身の彫刻家、安田侃(か)さん制作のモニュメント「帰門(きもん)」がお目見えしました。



新1年生になる幼児センターの年長児と一緒にお披露目(前列右側が安田さん)

田さんも来町し設置を見届けました。両側の四角柱から延びる腕が植物の種子のように見えるオーバル状の円形オブジェを支えているようなモニュメント。

高さ約4尺、幅約2・5尺、重量約1・6トンのブロンズ像で、表面は銀黒色に塗装しています。アルテピアッツァ美唄(美唄市)、長延寺(横浜市)、シティーガーデン(アメリカ・セントルイス市)、パルコ・ソラーリ公園(イタリヤ・ミラノ市)などに設置しているモニュメントと同形だそうです。

安田さんは「どこに帰るのかは一人ひとり違う。帰るところは、建物に帰るとか学校に帰るといった意味ではなく、『われ』に返るとのこと。迷わずお

のれに戻っていく」と制作意図を話しています。隣接の地域交流センターには、安田さんの別の大理石作品「意心帰(いしんき)」も設置しました。

こちらは旭岳を望む三面ガラス張りの集いの場、交流プラザに設置しました。「子どもたちが触れて体ごとぶつかっていきけるようにした。卒業する子どもたちが世界中に飛び出して行って風景が違うことに気づかされてやがて帰ってくる」との思いを込めているそうです。

新校舎は、10月11日、落成式を迎えます。

敬老会で藤原さんと石川さん100歳のお祝い

9月14日、特別養護老人ホーム・羽衣園と隣接の老人保健施設・ひだまりの里の両施設で敬老会が開かれました。



松岡市郎町長が藤原ムメさんに満100歳のお祝いを伝達

80人が入所しているひだまりの里(本村勝昭施設長)では、松岡市郎町長が、満100歳を迎えた藤原ムメさん、石川ヤエさんの2人に安倍晋三内閣総理大臣からの記念のお祝いを伝達しました。

「町内には90歳以上の方が169人、50人に一人います。95歳以上の方は47人、99歳の方は4人、100歳を迎えた方は7人で、間もなく100歳以上の方が10人以上になる。おいしい水と

神饌田、今年も8月に抜穂祭

8月28日、東2号北1、三田常男さん(67)の北海道神宮神饌田(しんせんでん)で、今年の稲刈り儀式、抜穂祭(ぬいぼさい)を行いました。

8月中の抜穂祭は今年で3年連続。昨年比べて2日早く、豊作の連続記録が始まった4年前に比べて12日も早

まりました。農協青年部の後継農家ら介添え役6人と12人の早乙女が畝の中に分け入り、稲刈り唄(うた)に合わせてゆつくりと稲を刈りました。

就職前のインターン研修で来町中の武蔵野大学と立教大学の学生6人も早乙女に加わり稲刈りを体験しました。



ピッコロの会(伴美由紀会長)が恒例の演奏会を開きました。旭川大学短大部の学生4人のひげダンス、職員の大鼓と踊りの楽しい演芸披露もあり、手拍子を合わせて音楽や踊りを楽しみました。

うまい空気、食べ物が生き秘けつ。いつまでも元気に暮らしてください」と皆さんの長寿を祝いました。2008(平成20)年から両施設でボランティア演奏を続けている昭和音楽大学OBの